一般社団法人豊田青年会議所
2026 年度理事長所信

一般社団法人豊田青年会議所
第 67 代理事長
加納 俊和

「共創−共に未来を創る力−」

「共に集まることが始まりであり、共に過ごすことが進歩であり、共に働くことが成功である」
ヘンリー・フォード

私たちが一人では到底成し得ないことも、誰かと共に歩むことで、大きな力へと変えられる。

【はじめに】
私たちは日々、多くの人々の支えのもとで生きています。家族、友人、職場の仲間、そして地域の方々、気づかぬうちに、誰かの助けや関わりの中で生きているのです。
ある時、地域の清掃活動に参加したことがありました。初めは「自分一人がやったところで何が変わるのだろう」と、どこか冷めた気持ちもありました。しかし、時間が経つにつれ、多くの人々が笑顔で協力し合い、少しずつまちがきれいになっていく様子を見た時、改めて気づかされました。
「一人の力は小さくても、手を取り合えば必ず景色は変えることができる」と。
それでも、私たちは日常の生活の中で、つい自らの力だけで物事を解決しようとしたり、ひととの関りを避けてしまうことがあります。煩わしさや不安から協力を拒むことも少なくありません。しかし、一人の力には当然限界があります。

だからこそ、いま改めて問い直したいのです。
私たちはひとのつながりの中でどれほど多くのひとに支えられて、助けられているのか。
そして、そのつながりを、どうすればより大きな力に変えられるのか。

未来を変える力は、特別なひとにだけ備わっているものではありません。誰かと関わり合いながら、共に創ろうとする意志が、その力を生むのです。
一人では届かない未来も、多くのひとのつながりの中で、きっと実現できるはずです。

【65 周年に向けて】
1961 年 5 月 31 日、38 名の志高き青年たちによって（一社）豊田青年会議所は誕生しました。以来 65 年の歳月の中で、地域の課題と真摯に向き合い、まちの未来に想いを馳せ、行動し続けた先輩諸氏の歩みが、今の私たちの礎となっています。時代は大きく変わり、人口減少、少子高齢化、社会構造の変化、そして価値観の多様化、かつての常識が通用しない時代を、私たちは今、生きています。しかし、いかなる変化の中にあっても、（一社）豊田青年会議所の根底にある「まちを思い、ひとを育て、共に未来を創る」という理念は、決して揺らぐことはありません。65　周年という節目は、ただ歴史を振り返るためのものではありません。過去を知り、誇りを胸に抱きながら、みなと共に今という時代にふさわしい新たな価値を創造し、未来へと挑戦してまいります。

【つながる学びが未来を動かす】
現代社会は、急速な技術革新やグローバル化、そして価値観の多様化によって、働き方や生き方が変化し続けています。AI やデジタル技術の進展により、これまで当然とされてきた職業や技能が通用しなくなる一方で、新たな分野への挑戦や学び直しが求められる時代となりました。
また、学生にとっては、将来のキャリアや生き方を描くことがますます難しくなり、大人にとっても、仕事や家庭に追われる中で、新たな知識や技能を学び直す機会を得ることが困難な状況です。
子どもから大人に成長するタイミングである学生にとって、地域の大人から知見を学び取り、大人が若年世代の柔軟かつ新鮮な発想に触れることで、互いに刺激を与え合う場を創出いたします。かかる相互作用は、学びを通じて新たなつながりを生み、そのつながりが視野を広げ、やがて未来を切り拓く原動力となります。

【子どもの未来を生きる力を、共に育てる】
子どもたちは、情報端末やオンライン環境から知識を得る機会が増える一方で、五感で感じる実体験や、自然・ひととの直接的な関わりから学ぶ機会が減少しています。
しかし、豊田市には、四季折々の自然や広大な山林、矢作川の恵み、地域の伝統行事や産業現場など、触れて学べる環境が数多く存在します。この地域資源は、机上の学びでは得られない“生きた学び”の場となります。豊田市ならではの自然や文化、産業を活かし、子どもたちが直接体験を通じて「未来を生きる力」を身につけることが必要です。
まず、子どもたちが自然や地域社会と触れ合い、多様な人々との関わりを通じて、生きるために大切な力を身に付けられる運動を展開していきます。

【誰もが誇れるまちを目指して】
私たちの暮らす豊田市は、2016 年から中核市幸福度ランキングにおいて、5 回連続で総合 1 位になっています。これまで行政、企業、そして地域住民の努力により、暮らしやすく、魅力あるまちとして着実に発展してきました。子育て支援や公共交通の整備、地域資源を活かした観光や文化活

動など、さまざまな取り組みが実を結び、まちは確実に良い方向へと進んでいます。しかしその一方で、まちづくりは「誰かがやってくれるもの」という意識が根強く残っているのも事実です。本来、まちは特定の誰かがつくるものではなく、そこに暮らす一人ひとりが想いを持ち寄り、共に考え、共に創り上げていくものです。豊田市がさらに魅力あるまちへと成長していくためには、これまでの成果に加えて、市民一人ひとりの主体的な関わりと対話の広がりが不可欠です。幸いにも、地域には学校、企業、住民団体など、多様で豊かな資源が存在し、その関わり方次第で新たなつながりを生み出す土壌が整っています。我々は、そのつなぎ役として、まちの未来を描く場と機会を創出し、誰もが地域の一員として誇りと安心を持って暮らせるまちづくりを推進していきます。

【仲間と共にまちを創る】
青年会議所が継続的に地域へ貢献し、その存在意義を果たし続けるためには、組織の持続的な成長が必要不可欠です。会員減少は事業規模の縮小にとどまらず、地域とのつながりや運動の発信力をも弱める要因となります。会員拡大は、決して一部の者だけが担う特別な活動ではありません。会員一人ひとりの行動が新たなつながりを生み、その情報共有がさらなる広がりを生み出します。そのような連動性をもって、力強く会員拡大活動を行ってまいります。そして、地域を牽引する若きリーダーを、一人でも多くこのまちに輩出し、次代を担う人財の育成に全力を尽くしてまいります。

【発信がひとをつなぐ】
発信を定期的に行っているが、届けたいひとに必要な情報が届けられていないのが現状です。
情報は届けて終わるものではなく、つながりを育む種です。その種がつながりとなり、やがて大きな力へと育ち、地域を動かす大きな運動へと変わっていきます。活動の価値をわかりやすく、そして心を動かす形で伝えることで、「関わりたい」「共に創りたい」という新たな行動を生み出してまいります。そして、多様な人々の想いと活動を結び、情報発信を通じて共創の輪を広げてまいります。

【誇りをつなぐ】
私たちが組織として力強く運動を発信できているのは、先輩諸氏が長年にわたり築き上げてこられた揺るぎない信頼と確かな実績の賜物です。各地の青年会議所と交流を重ねる中で一般社団法人豊田青年会議所の存在感や活動の質の高さを実感した、メンバーも決して少なくないことでしょう。創立 65 周年を迎える今こそ、この誇りと想いを未来へ継承していく必要があります。加えて、学びや新たなつながりが生まれる各種大会への積極的な参加を推進し、日本各地で頑張っている出向者を激励し、更なる組織力の向上と地域への貢献を実現してまいります。

【次代へつなぐ組織運営】
一般社団法人豊田青年会議所の運動の起点は、確かな組織運営にあります。これまで培われてきた運営ルールを尊重しつつ、時代の変化に合わせてより効率的で効果的な方法へと柔軟に変え

てまいりました。この積み重ねが組織の安定した基盤となり、私たちの活動を支えています。私たちは、この基盤を活かしながら、過去にとらわれず、現代の状況や課題に即した組織運営のあり方を追求し、多くのメンバーが理解しやすく共感できる組織づくりを進めてまいります。

最後に

青年会議所に入会した当初は、与えられた役割や課題をただこなすだけでよいと考えていました。
それは、「一人が頑張っても何も変わらない」と思い込んでいたからです。
しかし、活動を続ける中で、多くの仲間と共に歩むことこそが大きな力を生み出し、変革をもたらす原動力となると実感するようになりました。
また、この（一社）豊田青年会議所が歩んできた 65 年の歴史は、決して一人の力で成し遂げられたものではありません。多くの先輩方、そして地域の皆さまとのつながりと協力があってこそ、今の私たちがあります。一人ひとりが手を携え、豊田の未来を共に創り上げていけると確信しております。